



「ベルテクスコーポレーション」設立

ホクコンとゼニス羽田ホールディングス（HD）は、10月1日付で共同持株会社「株式会社ベルテクスコーポレーション」を設立して株式を移転し、経営統合する。東京証券取引所の上場会社として事業をスタートさせるにあたり、完全子会社となる両社の現状を探り、今後を展望するためホクコンの花村進治社長とゼニス羽田HDの土屋明秀社長に対談いただいた。

先行きに危機感 土屋「モノ」+「コト」が大事



花村進治氏

「コンクリート製品業界が置かれている現状について、どうお考えですか。」

花村 国土交通省が建設業の生産性向上を目的に「i-Construction」を推進し、3本柱の一つであるコンクリート工の「規格の標準化」に向け、コンクリート生産性向上検討協議会を設置し、全体最適の観点から規格の標準化や設計手法のあり方が検討されている。プレキャストコンクリート（PCa）製品業界に追い風が吹いているように言われているが、一番心配しているのは少子高齢化の進行に伴い人口が減少していることだ。これは「i-Construction」が進展したとしても、人口が減ってしまうとPCa製品の需要が減るのは必至とみている。また、需要の多くを占める道路関係の新設工事も減少傾向にあり、先行きへの危機感がある。

花村 PCa製品は個々の現場にマッチングした型枠を用意して製造するわけだが、その型枠が高価で使い回しできず、コスト高になってしまふ。工期短縮×リットからPCa製品化を望む声は多いが、ある程度大型の構造物でも少し標準化し、次の現場でも同じ型枠を使えるようにするといった工夫が必要になる。現状はその辺のところが上手くない。ただ、建設従事者の減少に伴いPCa化が進展するのは間違いない。普及を図っていく上で、コスト低減にも努力しないといけない。

花村 この数年、PCa製品業界の統合が行われ、今までは市場が縮小する中で企業は生き残りを図っている。PCa製品業界は非常に厳しい状況にある。少子高齢化や多角化などがあるが、多角化は1社では限界があり、やはりM&Aしかないというのが最終的な結論だった。元気のある会社で、規模的に対等な相手としてゼニス羽田はベストな選択だった。ただし、急がず、1年くらいかけて検討しようというスタンスで臨んだ。

土屋 雨water貯留は当社も得意分野にしている。当社は擁壁とスラブを組み合わせた形状のツルミ式だが、ホクコンは門型式とスラブを組み合わせた自社開発製品。両者とも長年の蓄積がある。これまでの実績や情報力、設計力が戦力になり、増大するニーズの波に乗れると思う。当社はこれのほかにボルテックスバルブの

花村 PCa製品は個々の現場にマッチングした型枠を用意して製造するわけだが、その型枠が高価で使い回しできず、コスト高になってしまふ。工期短縮×リットからPCa製品化を望む声は多いが、ある程度大型の構造物でも少し標準化し、次の現場でも同じ型枠を使えるようにするといった工夫が必要になる。現状はその辺のところが上手くない。ただ、建設従事者の減少に伴いPCa化が進展するのは間違いない。普及を図っていく上で、コスト低減にも努力しないといけない。

土屋 この数年、PCa製品業界の統合が行われ、今までは市場が縮小する中で企業は生き残りを図っている。PCa製品業界は非常に厳しい状況にある。少子高齢化や多角化などがあるが、多角化は1社では限界があり、やはりM&Aしかないというのが最終的な結論だった。元気のある会社で、規模的に対等な相手としてゼニス羽田はベストな選択だった。ただし、急がず、1年くらいかけて検討しようというスタンスで臨んだ。

花村 雨water貯留は当社も得意分野にしている。当社は擁壁とスラブを組み合わせた形状のツルミ式だが、ホクコンは門型式とスラブを組み合わせた自社開発製品。両者とも長年の蓄積がある。これまでの実績や情報力、設計力が戦力になり、増大するニーズの波に乗れると思う。当社はこれのほかにボルテックスバルブの

将来に向けた布石 土屋氏 昨年8月に統合決断



土屋明秀氏

「経営統合を決断された時期は。」

花村 発端は昨年5月4年間をイメージできる

が、その後は非常に厳しく不透明だ。少子高齢化で人口がどんどん減っていく、市場が縮小している。5年先、10年先なら両社とも現状を維持できるが、20年後、30年後も働ける経営の礎を今のうちに作っておくことが大切だと考えてきた。どうせなら、我々と思いが同じで、しかも業績の良い優良な会社と一緒にいたいと思っていて、どこかにホクコンとの出会いがあった。

土屋 雨water貯留は当社も得意分野にしている。当社は擁壁とスラブを組み合わせた形状のツルミ式だが、ホクコンは門型式とスラブを組み合わせた自社開発製品。両者とも長年の蓄積がある。これまでの実績や情報力、設計力が戦力になり、増大するニーズの波に乗れると思う。当社はこれのほかにボルテックスバルブの



対等な立場で経営統合

花村 3回目の話し合いのあと、当社の副社長、常務に打診し方向性を

土屋 雨water貯留は当社も得意分野にしている。当社は擁壁とスラブを組み合わせた形状のツルミ式だが、ホクコンは門型式とスラブを組み合わせた自社開発製品。両者とも長年の蓄積がある。これまでの実績や情報力、設計力が戦力になり、増大するニーズの波に乗れると思う。当社はこれのほかにボルテックスバルブの